

釧路開発建設部は、大雨に強い釧路川の堤防整備手法を検討するため、有識者からなる「釧路川堤防技術検討委員会」を平成30年6月に設置しています。今回の委員会では、雨水の堤体浸透に関する現地試験堤防で得られた観測結果や分析に基づき、平成28年8月に発生した釧路川堤防の被災のメカニズムについて議論が行われました。また、取りまとめに向けて、堤防の被災に関するメカニズムの整理の方針や河川の整備や維持管理に関する考え方の整理の必要性についての指摘がありました。

本委員会では、近年大雨による堤防の法面すべりによる被災が発生している釧路川を対象として、雨水や洪水に対して堤防の信頼性を向上させる対策案の検討を行います。専門的知見を有する有識者による検討を通じて今年度中を目途に検討結果を取りまとめる予定です。

第4回 釧路川堤防技術検討委員会の議事要旨

- 日時：平成31年1月22日（火曜日）15:00～17:00
- 場所：釧路地方合同庁舎 4階第3会議室
- 出席者：委員長 福岡 捷二（中央大学研究開発機構 教授）
委員 川口 貴之（北見工業大学 准教授）
" 川尻 峻三（北見工業大学 助教）
" 早川 博（北見工業大学 教授）
" 前田 健一（名古屋工業大学 教授）
" 森 啓年（山口大学 准教授）
" 矢部 浩規（寒地土木研究所寒地河川チーム 上席研究員）



委員会の様子

■議事要旨

（主な意見等）

現地試験堤防の実験により、堤体表法面のシルト質粘性土は外水位に対して浸透を抑制するが、このシルト質粘性土は雨水の浸透により強度が低下していくことがわかった。また、実験から雨水による強度低下の発生は堤体裏法面でも発生していることがわかった。堤体が力学的に安定する勾配について解析等で検討する一方、釧路川の堤防の基礎的な材料特性（水を含むことによる強度低下など）を明らかにすることが重要であるとの指摘があった。

堤体土質の特性理解に基づいた対策の整理に加え、計画規模の洪水が流下した際の危険箇所などに留意するなど河川整備や維持管理の考え方を整理する必要があるとの指摘があった。